



どんぐりはツキノワグマ、イノシシ、サル、ネズミなどの大きささまざまな哺乳類の食物となっているほか、オシドリなどの鳥類や昆虫類もどんぐりを利用しています。どんぐりの結実状況は毎年変化しており、これを利用している生き物にも影響を与えます。

中でも秋期のクマは越冬や出産のために栄養を蓄えなければならず、どんぐりの結実状況が悪いと標高の低いところまで行動範囲を広げることがわかっています。結実状況調査は、クマなどの大型哺乳類が人里へ出没する可能性の大小を把握し、地域への注意喚起に役立つ目的で実施しています。

調査しているブナ科どんぐり(画像は8月)



ブナ



ミズナラ



ヤマグリ(実は甘栗サイズ)



コナラ

調査の方法

どんぐりの結実状況は木全体を双眼鏡で眺めて、右の基準を基に判定しています。

樹種によって調査本数は異なりますが、全体で226本調査し、「樹種ごと」「地域ごと」に結果をまとめています。

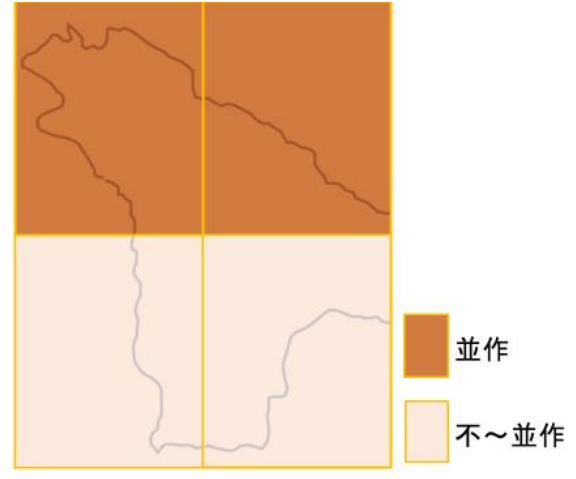
豊作	木全体にたくさん
並作	一部にたくさん 又は木全体にまばら
不作	一部にまばら 又は全体に数個
凶作	全くない

樹種ごとのみのり

樹種	ブナ	ミズナラ	ヤマグリ	コナラ
結果	凶～不作	並作	不～並作	不～並作

地域ごとのみのり

市の西側全体の結実状況
今年は「不～並作」です。



8月のどんぐりも



まだ緑色の小さいどんぐりにハイイロチョッキリが産卵し、枝ごと切り落とした痕。他にもどんぐりに産卵する種がいます。



まだ緑色の小さいどんぐりを、樹上で活動できる野生動物が食べた痕。

9月以降のどんぐりも



ツキノワグマが木に登ってどんぐりを食べた痕。どんぐりを食べるために折った枝の塊をクマ棚という。落葉した後は分かりやすい。



秋の森で「ゲーゲーツ」と忙しく活動しているカケス。どんぐりを様々な所に隠して貯食する(ヤマグリをくわえている写真)。



冬、ヤマガラがコナラのどんぐりを脚で押さえて中身を食べている。どんぐりは、9月頃落果した未熟な実と思われる。



リスが倒木の上でヤマグリを食べた痕。殻を剥いて食べていることがわかる。

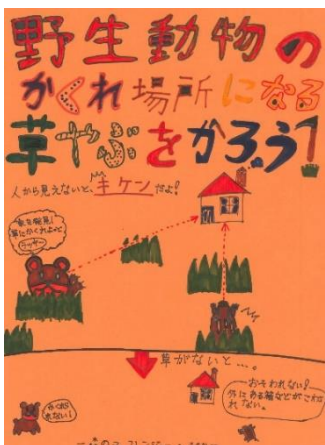
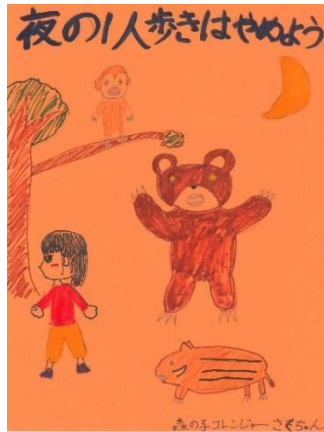


イノシシのフン。どんぐりの殻がフンの中に見える。



ミズナラのどんぐりから出てきたシギゾウムシ類がハイロチョッキリの幼虫。土の中に移動して冬を越し、翌年から翌々年に成虫となって出てくる。

野生動物を人里に引き寄せない・人身事故を防ぐために



＊ 漬物樽や肥料などは屋内に入れましょう
 ＊ 養蜂箱の管理をしましょう

コレンジャーが作成した「地域の暮らしと生物多様性を守り育むためにできることポスター」です。できることからご協力をお願いします。

